

# 「期待」

## ～期待が奇跡を～

ローマ 5:1~5, I コリ 13:7

日常生活（結婚・仕事・子育て・・・）の中で私達はどのような思いで過ごしていますか。マイナスな出来事が起こった時、どのような思いで受け止めているのか。賛美をする時、礼拝のメッセージを聞く時、どのような思いでそれらに臨んでいるのでしょうか。神が下さる祝福、約束を本当に期待して待っている事ができているのでしょうか。神は私達にとって凶器になるようなものを与えたりしません。一番良い時に一番良いものを与えて下さるのが神です。そこで大切なのは私達はその良い時を期待して待つという事です。期待がなければ受け取るべき時に受け取る事ができません。私達に希望を与える神はそれぞれに計画を持った上で私達に忍耐を与えられます。『すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。』（I コリ 13:7）期待は忍耐を磨くものであり、期待とは時期を待つので忍耐が伴うのです。今日のメッセージのサブタイトルは「期待が奇跡を」ですがなぜ期待が奇跡を生むのでしょうか。人類学を研究している、ある有名な学者の見解を参考にしてみると、人間は自分が過去に経験した事でしか「幸せ」と感じる事ができず、それを越す事はないそうです。「この事については幸せだ」と自分を納得させ、それ以外でも「幸せになりたい」と思います。しかし、そこに絶望や期待が持てないような事があると人間の脳は勝手にマイナスな事を消して「幸せ」という「理想」ばかり思うようになるそうです。当然、自分にとって都合の悪いものを全て排除した理想の幸せなわけですから、そのような人間的に描いた幸せな夢はほとんど叶わない。というのが、その学者が出した結論というわけです。人間が描く夢とは自分が努力するという事を削除した上で夢を描くので私達の意識の中では「棚からぼた餅」のように偶然に与えられるもの。として認識されているようです。ですから実際に夢が叶った人は偶然に何かしたら、たまたま上手くいった。くらいの確立でしかないのです。これが私達の脳で考える事のできる「理想」という「期待」なのです。ですから期待だけでは絶対に幸せは訪れません。この様な話を踏まえた上であなたは本当に今幸せだと感じている事で満足する人生で終わってしまっても良いのか思い直してみてください。私達は実際以上の幸せを望んでいますが、現実とかけ離れているので、手が届く小さな幸せで「こんなもんだよな。でも幸せ。」と納得します。これを繰り返している限り実際以上の幸せは訪れません。だから私達はこの聖書の中で期待していかなければならないのです。聖書の中ではエリヤ（I 列王 18 章）、エステル（エステル記）、シメオン（ルカ 2:25~38）のように期待が奇跡を生んだ話がたくさん出てきます。しかし、期待だけでは奇跡は起こりません。期待に「何か」があって奇跡が起こり、喜びが生まれます。ではその「何か」とは何でしょうか。期待から奇跡のメカニズム①**期待は忍耐を磨く**。期待は時期を待つので2つはセットです。人間は期待すると疲れるので本当に欲しいものとするり替えて必ず得られる安全なもので満足しています。しかし、聖書でも期待は忍耐を生じさせるものなので期待からは何も生まれないのです。聖書でなぜ忍耐を大切にすることは、忍耐を生じる時に私達は喜ぶ事を学ぶからです。（ローマ 8:35~39）期待からは何も生まれない。この事を知っているのはクリスチャンの特権です。②**忍耐は希望を生み出す**。期待はならないので忍耐します。その忍耐が希望につながればすごい事になります。期待は自分で持っているだけですが希望は自分で出すべき所へ出すものです。クリスチャンは私達の事を愛して止まない神に自分の希望を上げる事ができます。③**希望が奇跡を呼ぶ**。期待して忍耐し希望につながれた人には奇跡が起こります。みなさんは神に小さな奇跡を望んでいるのではないですよ。自分が考えられる小さな幸せを描くだけでは一生期待し続けるだけで終わってしまいます。私達が持つ期待は妥協案ではいけないのです。あなたが神に示された事を「絶対なる」と信じ続けましょう。奇跡が起こる時には必ず種があります。その種が期待です。神にとって不可能はありません。あなたの期待を希望にまで発展させて下さい。そうすると奇跡は必ず起こります。なぜならあなたに示されている期待はあなただけのものではないからです。全ては神の栄光が現される為にあるからです。あなたの希望は必ず成ります。実を結ぶ素晴らしい一年が待っていますよ。